

祝5年連続 優秀賞

題目：『瑞穂七色唐辛子で広がる江戸東京野菜』
～ 瑞穂町の産業振興を目指して ～

8月23日に、海老名市立文化会館にて開催されました関東地区学校農業クラブ連盟大会に、本校食品科生徒8名が東京都代表選手として「プロジェクト発表会 分野Ⅲ類（ヒューマンサービス）」に出場しました。
全国大会には進めませんでしたが、5年連続の『優秀賞』を受賞いたしました。



東京都代表として、他県代表と決してひけを取らない堂々とした発表でした



大会を終え、やり切った！と実感しているメンバー、出場者全員で記念撮影

＜ 関東大会での発表活動をふりかえって ＞

最優秀賞にはなりませんでした。先輩達の発表や他校の発表を見て学ぶ事は沢山ありました。先輩方の発表が今まで以上に良いものだったと思うので感動しています。そして、プロジェクトチームの結団力がさらに高まったと思います。これから、来年の大会に向けてリーダーや仲間と共に活動を頑張りたいです。

最後に、私を関東大会に連れて行ってくださった先輩方そして先生、ありがとうございました。

＜1年女性 補助者＞

このプロジェクト研究活動はメンバー全員の成長に繋がっていると確信した。普段の活動は勿論のこと、大会での活動はとても有意義な時間で充実していた。発表者だけでなく補助者も一丸となった発表が出来た。全員の想いを一つにして大会に向けることが出来た。大会での発表活動を通じて、成長すること・学ぶことの楽しさや喜びを知ることが出来た。だからこそ、「負けること」は「挫折」や「失敗」じゃないということを実感した。「負けること」は「学び」のチャンスだと強く感じた。

＜1年女性 補助者＞

初めての大会はとても緊張しました。不安に押しつぶされそうになっていたメンバーもいました。私よりも頑張っているメンバーも沢山いて、甘えてはダメだと強く思いました。

結果発表のとき名前を呼ばれなくても泣いてはダメと前日から自分に言い聞かせていました。

しかし、泣いてしまいました。その後のミーティングでそれぞれの言葉を聞いていて、その場を逃げたくなりました。言葉にするほど役に立てず、先輩達の眼差しも痛く感じました。何を語っても納得出来るものはなく、悲しくなり、また涙を流しました。

先生や先輩方が一人ずつに言葉を述べ自分の番になった時、無理に言葉を出しているのではないかと思い、目も合わせられず心の中でひたすら謝ることしか出来ませんでした。

口や頭では"楽しかった"と確かに思っていたましたが、心は罪悪感でいっぱいでした。しかし、学べたことは本当に多くありました。そのおかげで、自分を克服できたこともありました。

自分にとってこのプロジェクト活動は”生命の一つ”と言ってもいいと思います。弱かった自分を強くしてくれたのもプロジェクトのおかげです。このメンバーで良かったです。

メンバーが違えば今の自分は居ないです。本当にありがとうございます。

言葉だけでは語れないものをくれた、先生を含めたプロジェクトメンバーにこれからも、光がありますように。

＜1年女性 補助者＞

私はこの大会を通して、たくさんのことを知り、たくさんのことを学ぶことが出来ました。特に、このプロジェクトチームの強さを知ることが出来ました。この大会で、横山先生を含め11名の力を出し切れたのではないかと私は思います。残念な結果でしたが、私にとって今回の発表は1番良い発表で、どこにも負けてない発表だと思っています。今回の大会を踏まえ、自分の反省点や良い点があるのでそれを活かし、次の大会では良い結果を残し、更にプロジェクトメンバーでもっと団結力を深めていきたいと思っています。

＜1年女性 補助者＞

大会当日。発表番号1番で最初だからこそ緊張した。8分経過のベルが私たちの求めていたところで鳴った時、本当に嬉しかった。大会前日の夜は10分超えが多かったのに、本番は9分40秒。発表者2人とも本当に強い力を発揮したと思う。他校を見て凄い事をしていると思う学校もあったけど、私たちの学校の方が凄いと思った。絶対に全国に行けると思っていた。勝ったと思っていた。みんな思っていたと思う。だから、結果を聞いた時は悲しかった。自信があったからこそ悲しかった。いろんな思いがこみ上げた。でも、大会は終わってしまったのだからどうしようもできない。この結果を受け止めるしかない。

関東大会は本当にあっという間だった。本当に貴重な体験だと思う。このプロジェクトメンバーだからこそ経験できたことが本当にありがたい。来年は群馬県に勝ちたい。この思いを忘れてはいけない。

＜2年女性 補助者代表＞

私はこの大会で多くのことを学び、多くのことを得ることができました。発表者という立場で多くの壁が立ちはだかる中、一つ一つその壁を壊すことができました。私自身に戦う力が身についたのです。以前まで戦うことを恐れていた私ですが、「今は自分自身成長することができている」と、とても強く実感しています。こんな素晴らしいチャンスを与えてくれるのはこのプロジェクトだけだと思いました。

今回の発表活動テーマは「勝つ発表」ではなく「伝える発表」でした。私はこのプロジェクトメンバーを代表して、伝える役として会場の皆さんに「私たちの活動」「私たちの思い」を精いっぱい伝えることができました。このメンバーで共に戦うことができて良かったです。来年はこのプロジェクトが、そして私たちがもっと成長した姿を今度は全国大会という場で多くの人に見ていただきたいと思います。協力してくれた町の方々や先生方、その他私たちの活動を応援してくれた方々への感謝の気持ちを常に持って、これからも研究活動をしていきたいと思っています。

＜2年女性 発表者＞

私自身、2回目の関東大会でした。前回発表代表者として大会に参加しましたが、あと一歩及ばず優秀賞になってしまいました。しかし、自分のやれることは全てやりつくしましたので、悔しい気持ちもある反面、達成感もありました。今年は裏方役に回り、前回大会での経験を活かしてアドバイス等をしました。すると、練習を重ねていくうちに全員が上手くなっていき、更に一年生が積極的に行動するようになり、チームとしての質が上がり、前回とは違う何かを感じました。

そして、前回よりも完璧な状態で挑んだ今大会。今年も優秀賞というとても悔しい結果になってしまいました。最後のミーティングではメンバーが皆口を揃えて「悔いはない」と述べ、次の大会でも全国を目指すと言ってくれました。

3年はこれで引退となりますが、これからはOBとして研究活動をサポートしていきたいです。応援してくださった町民の皆様、先生を初めとする多くの方々に感謝の気持ちを述べたいと思います。本当にありがとうございました。これからもご声援をよろしくお願い致します。

<3年男性 補助者>

私に居場所を与えてくれた。私に自信を与えてくれた。これがこのプロジェクト研究活動の神髄だと私は思う。私は2年次より参加したことを非常に後悔している。

もっとこのチームで、この研究活動の場で学びたかった。先日関東大会を終え、そして引退を迎えてとても残念に思う。しかし、こう思える事を誇りに思いたい。これはこの研究活動が私の「学び」の場であったことを証明している。農業科目の延長線上として学ぶことができるのは当然のことだ。しかし、私が思うのはこれとは違う。それは言葉では表せない。しかし、絶対的な価値に違いない。私はこの研究活動を通して学んだことを誇りに思い、未来への進路を切り拓く。そして、進路先でもこのチームを自慢し支援したい。

私の後輩が、チームが大人への近道を拓き、あらゆる場で「プロジェクト研究活動への誇り」を忘れずに活躍してほしいと願いたい。

<3年男性 代表発表者・プロジェクトリーダー>